



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要					
建物名称	朝日インテック静岡R&Dセンター研究開発棟新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B+
					★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5 /5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1 /5		ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.6 /5		がんばろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8 /5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上
					がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点		3.5	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①高い日射遮蔽性能及び断熱性能を有する仕様とした。 ④ビニルクロスやビニルタイルを採用している。 ④PEPやVPを使用している。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤、⑥敷地内を積極的に緑化した。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦断熱性の高い外壁を採用している。 ⑨LED照明を採用し、高効率空調機を導入している。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水コマに加えて、省水型機器の採用している。 ⑪井水を利用している。 ⑫LGS工法、OAフロアを採用している。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭燃焼機器を採用していない。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能			
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備			
	3.2 3.2.1 ③	昼光制御			
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数			
	2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔			
	2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			
	2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔			
	2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔			
	2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔			
	Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出			
	3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上			
	LR-1 1 ⑦	建物外皮の熱負荷抑制			
	2 ⑧	自然エネルギー利用			
	3 ⑨	設備システムの高効率化			
	4 4.1 ⑩	モニタリング			
	4.2 ⑩	運用管理体制			
	LR-2 1 1.1 ⑪	節水			
	1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無			
	1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無			
	2 2.1 ⑫	材料使用量の削減			
	2.2 ⑫	既存建築躯体等の継続使用			
	2.3 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用			
	2.4 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			
	2.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材			
	2.6 ⑫	部材の再利用可能性向上への取組み			
	3 3.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用			
	3.2 3.2.1 ⑬	消火剤			
	3.2.2 ⑬	断熱材			
	3.2.3 ⑬	冷媒			
	LR-3 1 ⑭	地球温暖化への配慮			
	2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善			
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点		3.1	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰通信手段の多様化や災害情報の入手に配慮した計画とした。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性			
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能			
	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備			
	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備			
	2.4.3 ⑰	電気設備			
	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法			
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点		2.6	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑳更新性に配慮した計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑メッシュフェンスを採用し、防犯性に配慮した。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画			
	3 3.1 3.1.1 ⑳	階高のゆとり			
	3.1.2 ㉑	空間の形状・自由さ			
	Q-3 3 3.1 ㉑	地域性への配慮、快適性の向上			
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点		2.8	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/③まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤、⑥敷地内を積極的に緑化した。 ■敷地外環境対策 (⑦持続可能な森林から産出された木材/⑧温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑧風を回復させるように、建物の高さ形状隣棟間隔等を工夫した。 	Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出			
	2 ⑥	まちなみ景観への配慮			
	3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上			
	LR-2 2 2.5 ⑦	持続可能な森林から産出された木材			
	LR-3 2 2.2 ⑧	温熱環境悪化の改善			

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築(新築)2021年SDGs対応版

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	朝日インテック(株)静岡R&Dセンター研究	階数	地上4階
建設地	静岡県袋井市下山梨	構造	S造
用途地域	指定なし 法第22条区域	平均居住人員	130 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年5月 予定	評価の実施日	2024年3月22日
敷地面積	5,726 m ²	作成者	崎田圭一郎
建築面積	1,457 m ²	確認日	2024年3月22日
延床面積	4,734 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 89%
③上記+②以外の 89%
④上記+ 89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 CASBEE静岡2021年SDGs対応版による評価結果です。		その他 ・特になし
Q1 室内環境 ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	Q2 サービス性能 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりを持った計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) ・敷地内緑化により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー ・外皮性能を高め、熱負荷用抑制に努めている。	LR2 資源・マテリアル ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を採用することで、水資源の保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される